

おわりに

新世紀を迎えて、ますます流動的な現在のわが国の社会的背景のもとで、様々な政策転換や構造改革が進行している。知的活動により社会の重要な役割を担ってきた大学への期待は、知の再構築が求められる時代になっていっそう強くなってきている。九州大学は、21世紀を生き続ける知の拠点としての新しい九州大学を示すため、新キャンパスを創造する。

新キャンパスに展開する施設は、各々が社会に開かれた大学像を示すとともに、地域の環境資源と大学との共生に配慮しながら、空間の質 - クオリティ・オブ・ザ・プレイス - を明確なものとする。そのため、土地と施設を全学的に管理・運営し、研究・教育活動の流動化や、部局等組織間の交流・連携を促す空間を積極的に確保し、競争を促す戦略的空間の活用を可能にしている。

工学系地区は、アカデミックプランを反映して、ユーザーである学生・教職員等の多様なニーズを満たしながら、静粛と活気、不易と変化など、一見して相反する性能をあわせもつ複合体として設計されている。1世紀近くにわたって九州大学が培ってきた伝統を引き継ぐとともに、新たな文化が生まれる素地がそこに準備される。

都心から車で約30分の都市近郊部に位置する新キャンパス及びその周辺地域は、九州大学学術研究都市のコア・ゾーンとして、地域の期待を担うエリアである。平成17年後期には、工学系の第1陣による新しい生活が始まることとなる。このため、九州・山口経済連合会、福岡県、佐賀県、福岡市、前原市、志摩町、二丈町等の関係機関によって組織された九州大学学術研究都市推進協議会をはじめ、地域をあげた周辺整備の取り組みが急ピッチで進められている。

ここに、九州大学工学系地区の建設と第1期移転に向けた関係各位の一層のご協力とご支援をお願いする次第である。